

日本と韓国の共通点と相違点を探ることで偏見や差別は減らせるのか

3年2組9番 後藤鈴那  
3年3組19番 堤美紗

Keyword: 「日本」「韓国」「文化」「偏見」「差別」

## 1. はじめに

ボランティアの一環でウトロ地区にある在日韓国人の資料館を訪れた。その際資料館ができるまでの歴史を知り、簡単にここができたわけではないことや、日本人が悪く思ったことでウトロ地区で在日韓国人の人たちが暮らす場所で火災があったことを知り、胸が苦しくなった。日本に住んでいるのに、その人たちの歴史や現実があまり知られていないと思った。さらに知らないままだからこそ、偏見や差別がなくなるのだと思い、在日韓国人の人たちを特別な存在ではなく、同じ社会で共に生きている人として、日本人のみんなに知ってもらい、差別をなくそうと思った。しかし、自分が在日韓国人となかなか話ができないのと日本の韓国人に対する偏見や差別が広まっており、多くの人がこれを否定的に見ており騒動を引き起こす原因になっていたことがあるため、この活動は難しいと判断し、諦めました。しかし、スタディツアーで韓国を訪れた際に、韓服を着たり、韓国の人と交流することで、自分の考えていた韓国と違うことに気づいた。具体的には、韓国に行く前は「辛い料理ばかり」「派手な服」という思い込みがあったけど、実際は料理の味も豊かで繊細だし、韓服も落ち着いた色で上品だった。体験を通して、ネットの情報だけで勝手にイメージを決めていたことが分かった。ちゃんと自分で触れてみれば、本当の姿が見えてくると実感した。そのため、日本と韓国が同じアジアにある国であるのにお互いが差別していることを疑問に思い、国に対して感じている偏見や差別を減らそうと考え在日韓国人から韓国の偏見や差別をなくすことに探究のテーマを変えた。

## 2. 序論

まず探究を始める前に考えた問いを3つ立てた。それは、韓国の文化を体験して学ぶことは偏見を減らすためにどのように役立つか、韓国に対してどのような偏見を持っているか/韓国に対しての偏見がどのように変わったのか、日本と韓国では差別語の使われ方や置き換え方に違いがあると考えられるかである。

また、参考文献から、日本と韓国では差別をなくそうとしているが、対応の仕方が違う。日本では柔らかい表現で差別を避ける傾向が強いが、韓国は法的・社会的に差別をなくそうとしている。日本人の中には、無意識に韓国人は悪いと結びつけてしまう潜在的偏見があるが、多くの方は「差別的な発言をしてはいけない」という理解があり、行動を抑えている。若い世代ほど、こうした理解が多く、差別を避けようとする傾向がある。人は自分と異なる人を無意識に「グループ化」して認識する傾向がある。自動的なグループ化が、思い込みなどのステレオタイプや偏見の元になる。しかし、他者と実際に交流したり、文化の共通点や違いを理解したりすることで、こうした先入観がやわらぐ。

そこで、文化の共通点や利害を理解するためにまずは国際生とセジョン国際高校でアンケートを取り、偏見や差別についてのアンケートを行った。また、文化体験である料理体験をして偏見や差別が減らせるか調査した。

### 3. 本論

今回、国際高校の全学年を対象に韓国に対する意識調査を行った。その目的は、日本の高校生が韓国についてどんなイメージを持ち、どんな経験や情報からその考えが作られているのかを知るためである。まず「韓国に対して差別的なことをしたことがあるか」という質問では、98.3%の人が「ない」と回答し、多くの人が自分の中に差別意識はないと考えていた。しかし、「韓国に対して差別している人を聞いたことがあるか」という質問では、約75%が「はい」と答え、身の回りやSNS、ニュースなどで韓国に対する偏見的発言を聞いた経験があることが分かった。回答を見ると、「周りの大人の影響」「SNSで反日教育の話を見た」「歴史問題のイメージがある」といった意見があり、家庭環境やネットでの情報が意識に影響していることが分かる。また、「K-POPと比べられて嫌だった」「韓国人というだけで悪く言われているのを見た」という経験談もあり、文化や国籍に関する偏見が日常の中で表れていることが確認できた。

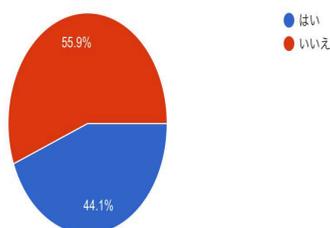
一方で「特に偏見はない」「そういう考えを持たないようにしている」という意見も多く、必ずしも否定的な意識ばかりではないことも分かった。さらに、「韓国をより理解するためにどんな体験がしたいか」という質問では、実際に韓国に行きたい、韓国の文化や歴史を学びたい、韓国料理を作ってみたいという回答が多かった。単に情報だけでなく、体験を通して理解を深めたいという前向きな姿勢が見られたのが特徴的である。

そこで、アンケート後に実際に韓国料理を作る体験を行った。料理体験は7月8日に9人で行った。韓国の伝統料理である、キムチやトッポギ、チーズボールを作った。参加者は韓国料理に触れることで、味や文化の違いだけでなく「意外と日本と似ている点」や「食を通じて文化が近く感じられる」という気づきを得た。その後、もう一度アンケートを実施したところ、「より韓国に興味があった」「イメージが変わった」「文化を直接体験すると距離が縮まると思った」「ニュースやSNSだけで判断していた」という声が多く見られた。つまり、直接体験を通して理解が深まり、先入観が薄れたり興味が高まったりする効果があったといえる。

今回の調査を通して、日本の高校生の中には偏見や誤解が影響している部分もある一方で、交流や体験を通じて正しく知ろうとする気持ちが強いことが明らかになった。今後も情報だけではなく、「自分で体験する」「実際に交流する」という姿勢を大切にすることで、より良い相互理解につながると考えられる。

差別や偏見を持ったことはありますか

59件の回答



### 4. 結論

ボランティアでウトロ地区の在日韓国人資料館を訪れ、差別の歴史を知ったことをきっかけに、在日韓国人への偏見をなくしたいと考えた。しかし直接関わる機会が少なく難しさを感じていた。そこで韓国へのスタディーツアーで現地の人と交流し、自分の抱いていたイメージとの違いに気づいたことから、偏見の原因を探る探究に取り組んだ。

アンケートでは約6割が偏見を持った経験があり、その多くが大人やSNS、歴史問題などの影響を受けていた。

その後、韓国料理体験を通して理解を深め、偏見は上の世代からの影響が大きいと考え、親や教師などへの働きかけが重要だと感じた。今回の探究では、お互いの国の理解を深め、安全で楽しい旅行にするため日本人、韓国人に自国のおすすめのアンケートをとり、Webサイトを作ることが最終目的だったが、直接的な長時間の交流や観察調査を行うことは難しく、韓国人にアンケートを取ることに出来なかった。今後の課題としては、国際高校の生徒にアンケートを取り、みんなが見やすく、日本と韓国それぞれが行きたくなるような旅行Webサイトやパンフレットを作る予定である。今回日本で一定数のアンケートを取れたが韓国では少数しか取れなかった。また、改善点としては、料理体験後に気になっているひとを見かけたので、料理体験を知らせるポスターの作成やアンケートはもっと幅広い年代に取る必要がある。もう少し工夫すれば多くの人数が集まったのではないかと考える。

## 5.おわりに

韓国の人に実際に話を聞いてみると、今までは日本には良いイメージしか抱いていないと思っていたが、悪いイメージも少なからずあった。また、元々韓国が好きだったが、スタディーツアーでの交流や体験を通して、韓国の人について親しみやすさや価値観を深く理解し、文化や歴史について深く深められた。最初は差別をなくすことは難しいと思っていたが、スタディーツアーや留学生と交流する中でお互いに理解しようとする気持ちや、行動があれば少しずつ減らせることに気づいた。また、探究を深めるときに無意識な偏見が自分自身の中にもあると感じた。韓国と日本の間での差別や偏見が生まれる原因は、世代間によって違いが見られた。これからは、知識や経験を通して世代間の違いや文化の違いを理解し、差別や偏見に対して自分にできることは何かを常に考えていきたいと考える。国や文化が違うからといって最初から距離を置くのではなく、自分の目で見て、事実を知ろうとする姿勢を大事にしたい。聞いた話だけで判断せず、わからないことは調べたり、実際にその国の文化に触れたりしていきたい。もし周りで偏見や差別を見つけたら、見て見ぬふりはせずに、まず自分が知らないことを知ろうとして、相手の立場も考えられる人になりたい。小さなことでも、誰かを理解しようとする行動が、偏見を減らす一歩になると考える。これからも気づき続けて、行動できる人でいたい。今回日本で一定数のアンケートを取れたが韓国では少数しか取れなかった。また、改善点としては、料理体験後に気になっているひとを見かけたので、料理体験を知らせるポスターの作成やアンケートはもっと幅広い年代に取る必要がある。もう少し工夫すれば多くの人数が集まったのではないかと考える。

## 6. 参考文献・出典

NOTE【韓国論文】日韓で異なる差別用語に対する認識レポート2023年9月26日

<https://note.com/1tm4oy/n/n233e6fc48124> (2025)

JAMS 韓国人に対する偏見の表出と社会規範：IATを用いた潜在的偏見の測定と顕在的偏見との関連の検証 原著論文2023年4月24日

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/ojjams/38/2/38\\_212/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/ojjams/38/2/38_212/_pdf)

(2025)

Google Scholar 偏見低減研究の展開と課題 論文 2024年2月13日

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcss/31/2/31\\_2024.005/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jcss/31/2/31_2024.005/_pdf/-char/ja) (2025)

KCI통합검색 차별어에 관한 연구-차별의 정의와 차별어 대체표현의 한일비교를 중심으로- 論文 2021

<https://www.kci.go.kr/kciportal/ci/sereArticleSearch/ciSereArtiView.kci?sereArticleSearchBean.artid=ART002677462>